

ICT を活用した学習場面

B1 個に応じる学習 B3 思考を深める学習

国語科

3年3組 山下 千春

単元名 グッとくるお話音読会を開こう～グッとくる場面を紹介～(わすれられないおくりもの)(10/11)

本時のねらい：自分が選んだ場面について、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を基に音読の工夫を考えたり、音声を録音しながら繰り返し音読の練習をしたりすることを通して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに気を付けて音読することができるようにする。

評価規準：自分が選んだ場面について、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに気を付けて音読している。

【知識・技能】

指導の流れ

児童の活動（ICT 活用の様子）・ICT 活用のねらいや留意点

1. 音読の工夫を考え、音読デザイン帳に記入する。
2. ロイロノート（録音機能）を使って、録音しながら個人で音読の練習をする。



- ・ロイロノートに録音することで、自分の音読を客観的に繰り返し聞くことができるようにし、工夫について自分自身で聞いて確かめながら練習することができるようにする。
- ・何度も繰り返し録音できるため、データファイルに数字をつけ、録音の区別が明確になるようにする。
- ・目指す読み方になっているか確認し、最も良いデータファイルは目印として背景の色を変えておくようにする。

3. 次時では録音した音声を友だちと視聴し合い修正することを確認し、本時の振り返りをする。

ICT 活用の効果（困りが解決されたか）

成果：ロイロノートの録音機能を使うことで、自分の音読（工夫）が音読デザイン帳に書いた「目指す読み方」の通りにできているのか、自分自身で確かめながら練習することができた。適宜「目指す読み方」に合った音読（工夫）ができているのか録音したものを聞いたり、聞いて気付いたことを修正しながら繰り返し音読（録音）したりすることで、「言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに気を付けて音読する」という本時のねらいを達成することへつながった。

課題：録音機能を使用する際は、他の児童と距離が近いと友だちの音声が入ってしまい、本来のねらいを達成できないことがある。そのため、個別に十分に距離をとったり部屋を変えたり（今回は、同じ絵本を選んだグループで分かれて教室・外国語ルーム・理科室・図書室を使用）するなど、防音に配慮した場の設定が重要となる。